

**埋蔵文化財調査**

あつぎ はだ の どうろ  
厚木秦野道路の建設予定地は、多くが「埋蔵文化財包蔵地」に該当し、  
たくさんの遺跡が発見されています。  
場所によっては深さ7m以上の掘削を行い、埋蔵文化財調査を進めています。

## どうして貴重な文化財がたくさん出土しているの？

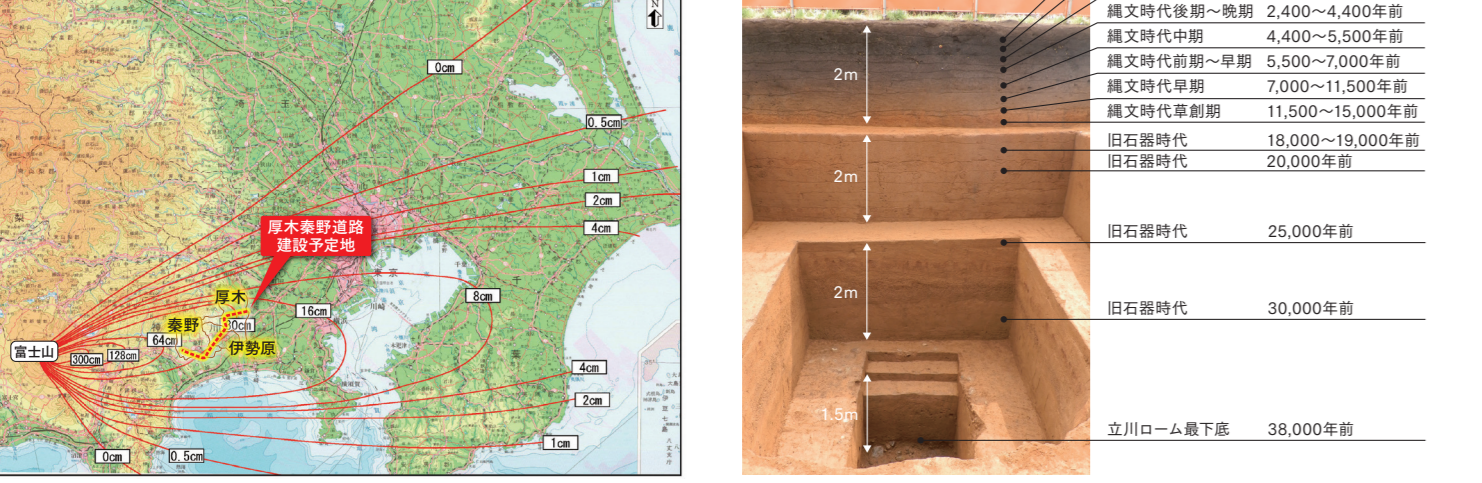
**狩猟採集生活に適した環境**

埋蔵文化財は人々の暮らしてきた軌跡です。多くの人々が暮らしていれば、それだけ多くの埋蔵文化財が発見される可能性があります。厚木秦野道路の建設予定地周辺は北西端にそびえる大山を頂点に、川が南・東方向へ流れ下っています。そのため特に狩猟採集生活だった旧石器時代から縄文時代はその河川を中心に集落ができたと考えられ、その時代の遺跡が多く見つかっています。

## 富士山噴火の影響で多層にわたって遺構が存在

厚木秦野道路建設予定地は、富士山噴火のたびに偏西風に乗った火山噴火物が堆積してきました。そのため、他地域では後世の掘削や近現代の開発等により遺構が失われている中、本事業地では遺跡が何層にもわたって豊富に残存することとなりました。

## 宝永噴火の降灰分布



富士山ハザードマップ検討委員会中間報告(2004年)より抜粋  
※富士山頂からのおおよその距離を内閣府加筆 ※厚木秦野道路建設予定地を本パフレットにて加筆



# 厚木秦野道路で何が変わる？

## ～整備効果～

**効果 1 渋滞緩和・時間短縮・地域交流**

国道246号を使用していた通過交通が厚木秦野道路に転換することにより、各地の渋滞が緩和されます。交通の流れがスムーズになると沿道の環境改善にも貢献します。

**効果 2 物流の円滑化**

厚木秦野道路の整備により、生鮮食品や医薬品等の輸送が円滑化。供給の安定性と物資の安全性が向上し、生活に欠かせない道路として活躍することが期待されます。

**効果 3 生活道路の機能改善**

国道246号の渋滞緩和により、市内の生活道路を抜け道としての車も減少し、安全で静かな環境に貢献します。

**効果 4 防災機能の向上**

災害や緊急事態の際には、緊急車両が確実に現場へ向かうことのできる道路の確保が重要です。厚木秦野道路は、東名、新東名、圏央道および国道246号と接続した交通網(ダブルネットワーク)を形成することで、災害時にも機能する信頼性の高い代替ルートとして期待されています。

お問い合わせ先

**国土交通省 関東地方整備局 川崎国道事務所**

〒213-8577 神奈川県川崎市高津区梶ヶ谷2-3-3  
Tel. 044-888-6411 ✉ @mlit\_kawakoku

<https://www.ktr.mlit.go.jp/kawakoku/>

川崎国道

公式 YouTubeチャンネル

公式 X

国道 246 ROUTE

# なるほど 深掘り!

過去と未来をつなぐ 工事ステップ

**埋蔵文化財調査でひもとく 地域の歴史と 厚木秦野道路事業**

あつぎ はだ の どうろ じ ぎょう

国土交通省 関東地方整備局 川崎国道事務所

監修：公益財団法人 かながわ考古学財団  
写真提供：神奈川県教育委員会、公益財団法人 かながわ考古学財団

神奈川県央地域の 広域ネットワークを形成

## 国道246号バイパス 厚木秦野道路

あつぎ はだ の どうろ

凡例  
■ 事業中区間  
○ 未事業化区間  
— 高速道路・有料道路  
- - 高速道路・有料道路 (事業中区間)

圏央厚木IC  
秦野西IC

厚木秦野道路は、国道246号の混雑緩和を図るとともに、E1東名高速道路、E1A新東名高速道路、C4圏央道と相互に接続することにより、神奈川県央地域における広域ネットワークを形成する延長約29.1kmのバイパス事業です。

## 厚木秦野道路事業のステップ

- 都市計画決定・事業化** 都市計画法に基づく一定の手続きにより将来のまちづくりに必要な道路の都市計画が決定し、事業へ着手します。
- 測量・地質調査等** 工事や用地取得のための基準となる測量や地質調査のためのボーリングなどを行います。
- 道路設計** 測量・地質調査の結果に基づき、道路設計を行います。地域関係者へ設計内容を伝える説明会等を行います。
- 用地取得** 道路をつくるために必要な用地をその土地の権利を持つ所有者等の方から補償等について了解を得て取得します。
- 埋蔵文化財調査** 用地取得後に、埋蔵文化財包蔵地及びその周辺の埋蔵文化財の発掘調査を行います。**多くの歴史的埋蔵文化財が出土!**
- 工事** 地域の皆様に工事計画についての説明を行ったうえで、工事に着手します。
- 供用開始**

**深掘り 国道246号の歴史**

現在の国道246号は「矢倉沢往還」に沿っています。「矢倉沢往還」は奈良時代に開かれ、箱根越えの東海道が出来るまでの官道の役割を担っていました。そのルートは江戸の赤坂御門を起点に、青山、渋谷、三軒茶屋を通り、瀬田、二子、そして多摩丘陵と相模野の中央を横切り、厚木、伊勢原、秦野、足柄峠を経て、沼津へと至るものです。

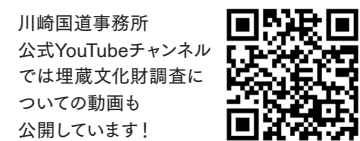
鎌倉時代以降は東海道が整備され、東海道は大名や武士、やぐらおろし、おおよまふり神社(神奈川伊勢原市)までの道は「大山詣り(大山道)」とも呼ばれ、江戸時代中期には庶民のブームとなった「大山詣り」の道として盛んに利用されました。

伊勢原・厚木・荏田を経て日常生活に必要な炭・わさび・干し魚・茶、さらに秦野のたばこが馬の背で江戸へ運ばれる等、物資を江戸に運ぶ大切な輸送路として利用され、これらを商う商人たちで大変栄えました。

おおよまふり 大山詣りへの道として ~大山街道(大山道)~  
やぐらおろし 矢倉沢往還の大山阿夫利神社(神奈川県伊勢原市)までの道は「大山街道(大山道)」とも呼ばれ、江戸時代中期には庶民のブームとなった「大山詣り」の道として盛んに利用されました。

# 埋蔵文化財調査STEP!

出土品の発掘の手順 (現場で必要な手順)



川崎国道事務所  
公式YouTubeチャンネル  
では埋蔵文化財調査に  
関する動画も  
公開しています!

STEP 0

## 試掘調査

道路建設が行われる予定地が埋蔵文化財包蔵地である場合、試掘調査を行い、本格的な発掘調査が必要かどうか、判断されます。

STEP 1

## 掘削

油圧ショベルなどの建設機械で遺構(過去の建築物、工作物)が含まれていない表層の土を剥がすように取り除きます。



STEP 2

## 遺構(過去の建築物や工作物)の確認

建設機械で表層の土を取り除いたあと、薄く慎重に遺構のある深さまで土を剥がすように掘り進んでいきます。この作業では鋤簾という農作業などで使われる道具を使っています。



STEP 3

## 遺構の掘削

発見された遺構を少しずつ掘削します。遺物が木製品である場合は、乾かないように霧吹き等で濡らせながら慎重に発掘していきます。



STEP 4

## 遺構の図面作成/遺構・遺物の測量

遺構の向いた方角、大きさや深さを図面(平面図や断面図など)に記録していきます。報告書にまとめます。また発見された遺構や遺物(土器や石器、木製品、金属製品など)が地球上のどこに位置するのか、緯度や経度、海拔等を測量して座標を記録します。



STEP 5

## 遺物の図化・写真撮影、調査報告書の刊行

出土した遺物は土を落とし、ブラシなどで丁寧に水洗いし、遺跡のどこから出土したかわかるように位置を記号化して遺物の一点一点に記入します。その後、遺物の特徴や時代により分類し、接合し復元をしていきます。そして復元した遺物の写真と、図面(実測図)、遺構の図面を作成し、取得したデータは整理したのち、その成果を発掘調査報告書として地域の教育委員会、図書館などに配布、皆さんが活用できるように公開されます。



## 遺構と遺物って?

遺跡は「遺構」と「遺物」という二つの要素で構成されます。「遺構」は古墳や住居跡などの「遺された構造物の痕跡」、 「遺物」は石器や土器などの「遺された物品」のことを指します。



# 特集 調査で発見! 地中に眠る地域の歴史

埋蔵文化財包蔵地に指定されている場所で道路工事を行う際には、必要に応じて地中に埋まった文化財の記録・保存を行います。厚木秦野道路の建設予定地においても、工事の前に文化財があるかどうかなどを調べる発掘調査を進めています。調査結果や出土した文化財は、地域の歴史や過去の人々の営みなどを知るヒントになっています。

## 1 上粕屋・和田内遺跡

■主な時代: 旧石器・縄文・古墳・奈良～平安・中世・近世

洗田川の支流に面した扇状地の北側に広がる、旧石器時代から近世までの複合遺跡<sup>※1</sup>。ここでは掘立柱建物跡<sup>※2</sup>や竪穴状遺構<sup>※3</sup>が確認されている他、古代末～中世初頭のものと思われる軒瓦<sup>※4</sup>が出土しています。この時代の瓦の類例は県内でも少なく、貴重な発見となっています。またこの瓦は上粕屋地区にかつてあったとされる極楽寺<sup>※5</sup>にも使用された可能性が高いとみられています。「極楽寺」は源頼朝の御家人とされる糟屋氏が建立したとされ、医術の一環として使われていたとされる「湯屋」も見つかっています。



井戸の遺構写真

中世の井戸の遺構。この井戸は湯屋に水を供給していたと考えられています。

「湯屋」とは昔のお風呂のこと! ただし、現代のようなお湯につかるのではなく、「かけ湯」または「サウナ」のようなものでした。

## 2 神成松遺跡

■主な時代: 旧石器・縄文・弥生・古墳・奈良～平安・中世・近世

大山の山際から伸びる上粕屋扇状地の合地上にある遺跡。中世の遺構からは建物跡を囲むように溝が掘られた方形居館跡<sup>※6</sup>が発見されています。東西の幅が約75mと大きく、身分が高い人の土地だったと推測され、さらに中世の遺物である「かわらけ」<sup>※7</sup>や高級品の中国産磁器の破片なども見つかると、文献から鎌倉時代に伊勢原周辺にいたとされる御家人・糟屋氏に関連する居館だったとされています。また、居館より少し離れた低い場所からは水田跡がみつかっています。その遺構の埋め土から「青磁碗」<sup>※8</sup>などの中世前期の遺物が出土していることから、伊勢原市内一帯に「糟屋荘」<sup>※9</sup>と呼ばれた安楽寿院の荘園があった時期の遺構と考えられています。



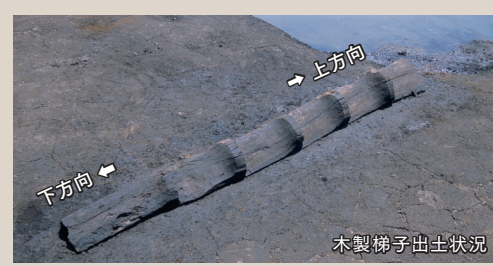
古代・中世面 全景

御家人・糟屋氏の居館かも?!

## 3 上粕屋・和田内下遺跡

■主な時代: 縄文・古墳・奈良～平安・中世・近世

上粕屋扇状地東側、谷の平坦部に位置する遺跡。この遺跡では縄文時代から中世にかけての河川流路跡が確認されており、そこから縄文土器を中心に、磨石、石皿、石槍などの石器、石棒や袂状耳飾りなどの石製品が出土しています。和田内下遺跡自体には住居跡は少ないことから、上流に位置していた秋山等の集落から下ってきたのではないかとされています。また古墳時代前期のはこの出土から、水を防くため高床でつくられた建物や近隣にあったと推測され、中世の溝状遺構からは埋埋の可能性がある木製の構造物が確認され、堰によって水位を調節し、農業用水などの利水が行われたと考えられるなど、河川と人々の暮らしが伺える遺跡となっています。



木製椅子出土状況

音の不製椅子が出土!

はしごは現代のような形ではなく、加工材にステップを刻んだだけのもの。足を掛けることでできるスペースはかなり狭く、当時の人々は履く現代人より足の力が強かったと考えられます。



## 4 上粕屋・秋山遺跡

■主な時代: 旧石器・縄文・古墳・奈良～平安・中世・近世

秋山台地上で、北側が谷戸<sup>※10</sup>に面している場所にある遺跡。大山から流れ出る鈴川が形成した上粕屋扇状地の扇端部に位置します。ここは複合遺跡で、奈良～平安時代や縄文時代の集落跡や中世の井戸跡、江戸時代の屋敷跡等、旧石器時代から近世まで各時代の遺構遺物が発見され、長い歴史の中で常に人の暮らしが営まれてきた軌跡が残されている遺跡です。特に注目されるのは縄文時代の遺構。墓坑<sup>※11</sup>を伴う配石遺構<sup>※12</sup>を中心とした後期の集落跡と中期の集落跡が発見され、当時の葬法について考える上で貴重な遺跡となっています。



配石遺構出土状況(縄文)

人の暮らしが営まれてきた軌跡が、たくさん残っています!

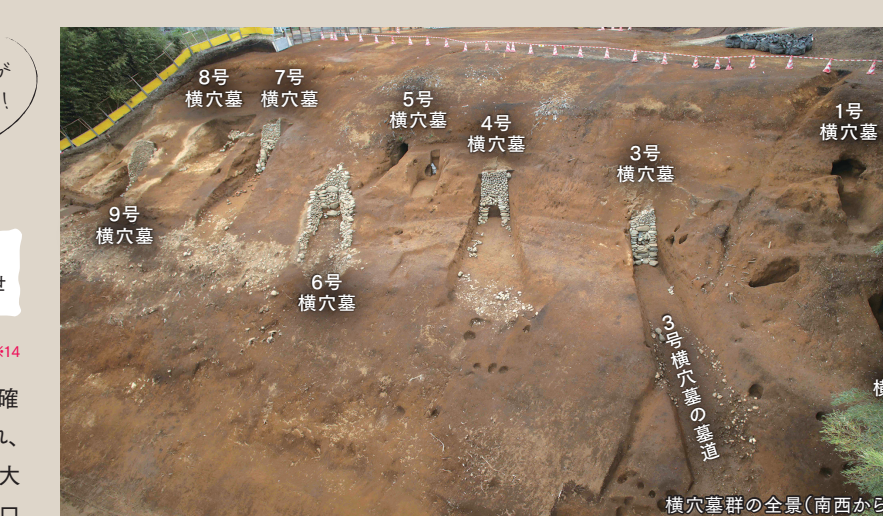
## 用語解説

- ※10 谷戸: 丘陵地が浸食されてできた、斜面と谷に広がる低地からなる地形
- ※11 墓坑: 遺体を埋葬するために掘った穴
- ※12 配石遺構: 人が運搬可能な程度の大きさの石を、一定の形に並べた遺構

## 7 中依知遺跡群

■主な時代: 縄文・古墳・奈良～平安・中世・近世

相模川と中津川にはさまれた中津川東岸の段丘<sup>※14</sup>にあり、旧石器時代～近世の遺構や遺物が多数確認されています。特に横穴墓<sup>※15</sup>は10基も発見され、その状態は全国的にもめづらしくなく、この遺跡の大きな特徴となっています。また、10基のうち6基の入口には河原石を積み上げて壁を構築した石積施設が設置されています。これは古墳の入口を意識して作られたと推測され、状態の良いものでは高さ3mにも及びます。周辺地域にも古墳や横穴墓が点在し、この一帯が古くから人々の営みとかがわってきた場所であることが伺えます。



横穴墓群の全景(南西から撮影)



古墳時代も「見込え」を重視!!

4号横穴墓 墓前域石積み施設 せんもんくさばきまきまき さいごひはらうらぎ 喪門閉塞除去・開口状況

## 6 三ノ宮・中尾根山遺跡

■主な時代: 縄文・弥生・古墳・奈良～平安・中世・近世

果原川支流の沢筋に面した東向き丘陵斜面に位置する遺跡。谷奥の丘陵頂部には尾根山古墳群も所在しています。中尾根山遺跡は下段の「上入増遺跡」と合わせ、主体となる時代は古墳時代となっており、両遺跡で竪穴住居跡が5軒発見されています。中尾根山遺跡の住居跡の一部では、内部に炭化材などが残った状態で発見され、上入増遺跡でも谷の中央部に位置した住居の床面が焼け、炭化材が残った状態で発見されており、焼失した住居と考えられています。近世では江戸時代の歌<sup>※13</sup>跡が発見され、耕作地として利用していたことが明らかになります。このように時代それぞれの生活の跡や出来事を遺跡から伺うことができます。



江戸時代の耕作痕を考えられる歌跡



三ノ宮・中尾根山遺跡

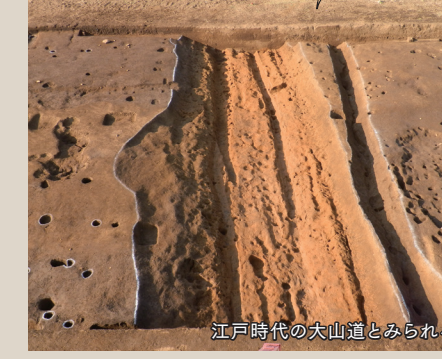
三ノ宮・上入増遺跡

昔から主要な道が通っていた?

## 5 上粕屋・石倉中遺跡

■主な時代: 縄文・奈良～平安・近世

上粕屋扇状地上の奥地・大山の山裾付近に位置する遺跡。この地域は中世以降の大山道の合流地点として、交通の要衝となっていたとされます。そのため各時代の遺構遺物が発見されています。近世では大山道と捉えられる大規模な道状遺構が見つかり、中世では現存する大山道の古い経路であると考えられる遺構遺物が湧出するものであったという発見がされ、さらに奈良～平安時代のものと考えられる遺構遺物も見つかるなど、各時代の道路変遷を辿ることができます。また大山詣りが江戸時代中期から後期にかけて最盛期を迎えたとの遺構は、道幅8~10mとかなり大きく、深さ1~2mの溝状の掘り込みの上には踏み固められた面が重層的に検出され、当時の賑わいを感じることができます。道沿いの建物へ通じる斜路や土器を焼いた窯跡、それに関連する水車小屋跡なども発見されました。人々と道路の繋がりと歩みを知ることでできる重要な遺跡です。



江戸時代の大山道とみられる道跡



水車小屋跡全景

関東地方2例目の水車小屋跡!

## 用語解説

- ※13 歌: 畑で作物を作るために細長く直線状に土を盛り上げた所
- ※14 段丘: 川の侵食により生じた崖
- ※15 横穴墓: 古墳時代後期を中心とする埋葬方法のひとつで崖面や斜面に横穴を穿って死者を埋葬する施設